



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>
E-mail info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

平成 28 年度がスタートしました

総会は五月二十八日(土)
今年度の事業計画

平成二十八年度がスタートしました。今年も新たな事業が始まっています。総会は五月二十八日(土)に開催します。総会では、平成二十七年年度の事業及び決算報告と平成二十八年度の事業計画と予算案が審議されます。総会に先立ち、すでに開始されている今年度の事業の一部を紹介いたします。

①ひまわりプロジェクト

今年の栽培協力者募集、種の発送作業が本格化しています。団体やグループへは、昨年末の「ひまわり感謝祭」で行われた「地域間交流フォーラム」の報告書とともに送りしています。報告書の付録として、栽培方法と栽培過程での課題を丁寧に解説しています。ホームページでも紹介しています。これらを活用し、今年も全国に大輪の花を咲かせていただきたいと思います。また、今年度の「ひまわりプロジェクト」案内用パンフレットも準備していますので、事務局に連絡いただければお送りします。活動の概要を知っていただくために、ホームページ上で昨年の「ひまわり感謝祭」の様子を動画で載せています。ぜひ御覧ください。今年も「ひまわり子ども大使」の派遣を始め、積極的に

交流事業を展開しようと計画しています。活動紹介のための講師派遣の要請等もあれば事務局にご連絡ください。

②人権フォーラム in ふくしま「命」をつなぐ、ふくしまの未来

六月十一日(土)、右記のフォーラムを福島市の「ラコパふくしま」において開催することとなりました。

原発事故から六年目を向かえ、地域再生の主体としての私たちに何が求められ、どう判断していくべきかが問われています。原発事故を教訓に、これからの未来を担う子どもたち、これから生まれてくる子どもたち、すべての「命」を守り育てていく社会を目指した「ふくしま」からの提案として、今回のシンポジウムは企画されました。

パネラーには、子どもの権利条約に関する第一人者・福田雅章氏、生命尊重運動をリードしてきた映画監督・千葉茂樹氏、ルワンダの内戦を体験しルワンダに学校建設を行い支援を続けているマリールイスさん、事故後の被災地の子どもたちの保護プロジェクトを指導してきた吉野裕之氏の四名をお願いしています。震災により多くの命が失われ、身近な人々たちを失い家族が分断される中で、「命」の重みが改めて問われている。政治や経済によって「命」が脅かされてはならない。「命」を守るための活動をそれぞれの立場で実践されてきた皆さんの議論の中から、これからのふくしま、そして日本の未来を担う子どもたちに恥じないメッセージをまとめたいと考えています。

これから案内チラシ等も製作していきます。フォーラムでの記録は冊子にする予定で、多くの皆さんの意見も反映していきたいと思えます。もちろん積極的に意見の投稿もお願いいたします。

これまで同様、今年も教養講座「地元学を考える」は続きます。今年度も月一回の定期開催で四月の一四八回から一五九回までの十二回開催予定です。講師陣もさまざまなジャンルの方々で充実した内容を準備しています。講師は自薦他薦を問わず、皆さんの意見をもとに人選しています。「あの人の話が聴きたい」という意見もぜひお寄せください。「ひまわり感謝祭」も十二月に開催します。

「シャロームネットワーク」を通して、今年もシャロームの活動を伝えていきます。会員の皆さんとともに今年度の事業も楽しく充実したものにしたいと願っています。五月二十八日には皆さんとお会いできることを楽しみにしています。後日改めて、総会の案内を郵送しますのでよろしくお願いたします。(シャローム代表 大竹静子)

その営みの場である地面が突然崩れ去る。「大地に根を張りしっかりと生きていこう」と、不動のものの代名詞のように使われる「大地」が大きく揺れ動く。東日本大震災を経験した私たちにとって、今回の熊本の大地震は他人事ではない。最大震度七、七という数字とともに揺れの大さきの記憶が蘇る。日本列島は、火山だらけで地震がどこで起きても不思議ではないと言われてきたが、東北から九州へ、今度はその中間にある南海トラフがと不安がよぎる。

自然は大地に命を育み、時としてそれを一瞬にして奪い去る。自然の営みの中で生かされている個人、それは、自然が牙をむくとき助け合わなければ生きていけないということを思い知らされる。(T.O.)

今年の桜は、三月末に開花、こんなに早く咲いたというのは記憶にない。全国でほぼ一斉に咲いてしまった。春の草花が咲き誇る。春が全開。このペースで行くと今月末には夏目となるのでは。暖かくなるのはうれしいことだが、一年間の四季を刻みながらゆっくり変化してもらわないと体がついていけない。草木たちもあわててしまうのでは。自然の営みの中で生かされている生物である人間も植物も。

愛人のメモ帳

